第１１期 第１１回 鳥取市校区審議会 議事録

１　日　時　　平成２５年６月２７日（木）１５時３０分 ～１７時２０分

２　会　場　　鳥取市役所第２庁舎　５階会議室

３　出席者　　【委員】
渡部昭男委員（会長）、岩崎憲一委員(副会長)、大西孝雄委員、濱崎裕生委員、
吉澤春樹委員、上山弘子委員、神谷正惠委員、有本喜美男委員、前田多喜男委員、
横西経雄委員、福安　修委員
欠席：渡辺勘治郎委員、倉持裕彌アドバイザー
【教育委員会（事務局）】
木村正人次長、長谷川誠一参事、神谷康弘室長、橋本浩之課長補佐、小谷昇一主幹、
清水圭二主任

４　会議次第　　１ 開　会
２ 教育長あいさつ
３ 会長あいさつ
４ 議事録署名委員の選任
５ 報告
（１）第１０回 校区審議会概要について
（２）説明会・意見交換会等の実施報告について
（３）６月定例市議会 一般質問概要について
（４）小中一貫校「湖南学園」見学会の開催について
６ 議事
（１）今後の方向性について
①説明方針及び資料の変更について
②審議会委員の現地視察について
③意見交換会への出席について
（２）意見集約の方法について
７ その他
８ 閉　会

５　議事の概要

教育長　　今年度は初めてですが、第１１回の校区審議会であります。お忙しい中をご出席いただきありがとうございます。

１月にいただいた「中間まとめ」、これは１０期に策定された基準で解決すべき問題や課題を、学校或いは地域ごとに抽出して議論いただいていますが、耐震調査の結果で浮上した「西部地域の学校のあり方について」の議論が大きく、皆さんには熱心に審議をいただいているところです。

議会でも毎回取り上げられておりますが、説明の仕方や資料の提示の仕方等で統合ありきの印象をお与えしたことについて、お詫びを申し上げております。ただ、将来を見据えて、子ども達がグローバルな時代で活躍していくために、教育というのは一体どのような環境でどんな学校がいいのか。これについて、しっかりと皆さんに議論していただきたいとお願い申し上げているところです。

今日は限られた時間ではありますが、十分にご審議をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局　　この４月に教育委員会の体制が変わりまして、２か月経ってしまいましたが、事務局の自

己紹介をさせていただきます。（次長から順に事務局職員の自己紹介）

事務局　　委員の中でも、若干新たな委員となられた方が２名おられますので、ご紹介させていただきます。
　鳥取市中学校校長会を代表しまして、福部中学校長の濱崎裕生様です。（自己紹介）
　次に鳥取市小学校ＰＴＡ連合会の会長で、城北小学校ＰＴＡ会長の吉澤春樹様です。（自己紹介）

事務局　　本日は、渡辺勘治郎委員、倉持アドバイザーがご欠席でございますので、報告いたします。それでは、会長にご挨拶いただき、進行をお願いいたします。

会　長　　前回の３月から３ヵ月経っております。その間、意見交換会や市議会等もありました。今日は意見交換会や市議会の様子をじっくりと聞かせていただいて、１０月末の任期まであと僅かですが、どのような形で議論を深めていくのかを検討したいと思います。
　どうぞよろしくお願いします。
　それでは、議事録署名委員ですけれども、今日は渡辺委員が欠席しておられますので、順番で岩崎副会長と大西委員にお願いします。
　報告事項をお願いします。

事務局　　報告事項（１）～（４）を報告。

会　長　　それでは、質問、意見等を出していただきたいと思います。まず私から３点お願いしたいのですが、１点目は、意見交換会の資料の中で「西部地域」という呼び方について、これは「旧気高郡」という呼び方が妥当ではないか、「西部」なら旧鳥取市の西地区も入るのではないか、という質問が出されています。事務局として、「西部地域」とか「西地域」の呼称について、このままこの呼び方を続けるのか、或いは意見交換会を踏まえて少し呼び方を変えるのか、ということです。
　２点目は、２・３ページのところに説明会、意見交換会の一覧がありますけど、西地域以外で、例えば福部でも開かれているようです。「中間とりまとめ」は鳥取市全体に出たものですので、全体ではどういうふうに説明が進んでいるのかをお聞かせください。
　３点目は、議題の方にも係ってくるのですが、我々の任期は１０月２３日までしかありません。１０ページに今後の審議のスケジュールということがあり、どのような形で次の新任期の委員へ引き継がれていくのか、１０ページのスケジュール表をまず説明していただきたいという、３点をお願いします。

事務局　　１点目の「西部地域」という言い方ですが、市民の皆さんには馴染みが薄いだろうという気がしています。実際には「旧気高郡」の方が通りはいいと思いますが、行政として統一的な呼び方で西部地域を使うことが決定しております。「西部地域」や「西地域」、また「旧気高郡」等と言ったり色々ある中で、統一表現として現在のところは「西部地域」という表現にしています。会議での説明の際に「旧気高郡という意味です」と申し添えるようにしていきますが、今のところはそういう取り扱いをしています。今後変えた方がいいかどうかは何とも言えませんが、統一的な表現は踏まえておかないといけないと思っています。
　それから「中間とりまとめ」は西部地域だけでなく、全市の問題であります。これから、例えば鳥取地域の小規模な学校についても説明していかなければならないと思っています。
　ただ、今のところは、４月、５月、６月は、西部地域の説明会等の対応で他に回らないというのが正直なところです。もちろんこれからまた順々に、そういった所にも話をさせていただきたいと思っております。
　具体的には、報告２の２ページの資料の３５番に書いてあります「福部の教育を考える会」という会がございました。その会から「校区審議会で何が話し合われているのか勉強がしたい、説明して欲しい」ということがあり出席したような次第です。

後は特別な動きはございません。ただ「地域づくり懇談会」という会があり、例えば明治地区はもうすぐ行われますが、議題の中に明治小学校のことについてのご意見、ご要望が出されています。「地域に出かけて協議させていただく」ということをお答えする予定ですし、実際にそういったことをしていくよう考えています。

それから１０月２３日までが今期委員の任期ということで、議題の方に入ってしまいますが、１０ページを見ていただきたいと思います。その中で、現在の西部地域の進め方が小学校と中学校をセットにしており、なかなか話がすっきりしないということがあります。提案になりますが、中学校に絞った形で意見集約を進めて、４月上旬に最終的な答申をする前に一旦なんとか中学校の方向性が出せたらと考えております。具体的な期日は書いていませんが、１０月の任期満了までに中学校の方向性が出せれば、気高の小学校４校についての議論がより深めていけるのではないかと考えています。

ただこれも、本当にそこまで持っていけるのかどうか分かりませんし、教育委員会が絶対こうだということでもありませんので、一つの案としてそういう気持ちを持っているということです。

会　長　　委員の皆さんどうでしょうか。

委　員　　ここ数か月で対象のＰＴＡ会長の意見を聞きました。西部地域の小学校ＰＴＡとしては、統合ありきのような説明が強かったので「統合の方向で進んでいるのだろう」ということで関心が薄いというのが実感だそうです。本来なら中学校の統合は、小学校なり就学前の保護者も関係するけれども、あまりにも唐突すぎて、特に今年の１０月には決まるという話がされていたみたいで、盛り上がりが少ないという意見を聞きました。

それとよく聞かれたのが、保護者会で意見をまとめると言われても、今の段階ではあまりにも情報が無さ過ぎて、意見集約は出来ないということを聞きました。

会　長　　特に質問と言うことではないということで、よろしいでしょうか。

もう一度「中間とりまとめ」の基本方針を押さえておきますと、これは鳥取市全体の問題として出されていまして、「まずは地域に返していこう」ということです。その中で地域や保護者の皆さんに学校の問題を考えていただきたい、特にＡという緊急度の高いところについては、大きく３つくらいの選択肢があるということです。

一つは学校と学校を横で合わせ、ある程度の規模を維持していくもの。それと縦、小学校と中学校でつないである程度の人数を維持していくもの。３番目としてその他のアイデアもあるのではないか、そういうものも踏まえて、「まずは地域に投げ返して地域の考えをお聞きしよう」ということですから、結論が決まっているわけではないということです。

重要なことは、説明会や意見交換会でいろいろ関心を持っていただく、市議会でも議論があり、今日も傍聴の方にお越しいただいていますけれども、そういう意味では関心を持って議論を深めていただけるよう努めるのが審議会の方向性だと思います。是非ＰＴＡの皆さまには「結論があるわけではなくと、むしろどんな学校のあり方が望ましいかを、色々な選択肢の中から議論していただきたい」とお伝え願えればと思います。

委　員　　わかりました。結論ありきではないということを伝えておきます。

会　長　　もう１点だけ付け加えますと、第１０回の議事録にも書いてありますが、今までの校区審の議論は、小学校と中学校ではメリハリが違うと。中学校ではある程度の人数を確保、維持しながら生徒同士が学び合い、放課後の色々な取り組みについて共に活動できる環境がふさわしい。小学校についてはもっと居住地域に根ざしたあり方を考えていく、これが鳥取市方式だということです。

そういった方針、考え方に基づいてそれぞれの校区、地域がどのように考えるか、ということになればと思います。その辺りを十分理解していただいて、ご議論いただけるとありがたいと思います。その他、他の委員はどうでしょうか。

委　員　　意見交換会の参加者数が、例えば約２５人という表現になっているのは、どういう考え方で、「約」という表記をされたのか、ということが１点と、参加者Ａ、参加者Ｂと表現してある発言者は、後の方にも出てくる参加者Ａ、参加者Ｂと同じ人という考え方ですか。

事務局　　人数で、「約」という表現をしているのは、会の途中で帰られたり、立場的に役所の職員なのか、職員であるものの地域の役員として一出席者ということもありますし、その辺りで確定的に何人と言いづらい部分があり、「約」という表現をしています。それから参加者Ａ、Ｂ、Ｃとあるのは、同一人物と理解していただけたらと思います。Ａがたくさんあれば、Ａの方が何度も発言されたということです。

副会長　　意見交換会の内容を見まして、学校の問題と同時に地域の産業振興等、色々なことについて質問があり、それはやはり校区と密接な関係があるからだと思います。今後、関連部署との関係、例えば協働推進課や都市計画課等に関係してくると思いますが、その辺りとの意見交換、教育委員会が別の部署とかみ合ったような話し合いは出来ているのですか。

事務局　　地域振興策は、どの地域でも必ずと言っていいほど言われてきました。気持ちとしてはやっぱり学校は単なる学校ではないという意識だと思います。「学校が無くなれば地域はどんどん寂れていく」、「学校が無いようなところに人は住まない」、「地域振興をどう考えているのか」、「人口が減るというのではなく、どうやって増やしていくのか」ということを言われます。

教育委員会として地域振興策をどうするとかは、申し上げる範囲を超えています。しかし、やっぱり地域振興策は大事だろうという認識に立って「皆さんと一緒になって出来ることをやっていきましょう」とお答えさせていただいています。

実際には中山間地域振興課という部署があり、そちらとも話をしています。学校の有無に関わらず、地域振興策は一生懸命取り組んでいることも説明しています。また、具体的な提案などがあれば、関係部署に届けていきますということもお伝えしています。

ただ、今のところ組織だって新しいプロジェクトチームのようなものが出来ているわけではありません。

会　長　　質問の内容は、将来的にそういった組織的なものがあったほうがいい、作るように検討していただきたいということですね。

もう一つ提案です。インターネットの関係で「情報弱者の問題」もありますが、仮にインターネットを活用しようと思えば、校区審議会のところに関係した情報、例えば中心市街地の問題、地域振興の問題であれば、ここをクリックしてもらうと、すでに何年に答申が出ているとか、バス路線がどういうふうになっているのかなど、他の部署の情報等をリンクさせる、そういった工夫も考えていただけますでしょうか。

委　員　　地域の意見交換会の資料を見させていただいて、非常に勉強になりました。中学校のあり方が問題提起され、その中でどこに重点を置くのかで皆さんから色々な意見が出てきているわけです。その中で通学の問題が一つ大きな問題であると思います。２つ目には地域振興の問題、３つ目にはこの審議、議論の進め方、この３つに尽きるのかなという気がしています。

考えとして統合を進めるべきだと思っていましたが、通学の問題で言えば、教育の公平という観点から、どちらがいいのかという疑問を今は持っています。

話は変わりますが、今この中学校と小学校の統合の話を一緒にやっているため、話の内容が非常にこんがらがって話が進んでいないように感じます。提案のように、中学校か小学校のどちらかを先行させた方がいいかなと思います。その場合に先行させた場合の校舎をどこにするかという問題が出ると、現在の案では、中学校と小学校の校舎を入れ替えるということなので簡単に切り離せないところはあります。しかし、小学校と中学校の問題は、切り離して論議した方が話が単純になるのではないかと思いました。

委　員　　詳細な意見交換会の資料を読んでみますと、地域の方の意見というものを改めて認識しました。その中で、事務局から提案があったように、まず中学校の問題を主体的に前に進めて、小学校は気高町４校の問題ですので、じっくりと審議するという方がいいと思いました。

鹿野、青谷で一貫校ということも出ていますし、地域に中学校が存在していたのに無くしてしまうことには、あまり事を焦ってはいけないという印象を覚えました。若い世代が家をどこに持つかとなると、やはり小学校もあり中学校もあり、交通の便がいいところにと考えますので、中学校の問題の結論を急ぎ過ぎてもいけないなと思います。

中学校統合を進めるのであれば、通学の問題で距離や経費負担も考えなければいけませんので、自分としては、もうしばらく事を急がずにそれぞれの地域に中学校は残すべき、という気持ちになりました。

委　員　　意見概要を確認しますと、統合ありきという受け止めをされているということがあります。校区審議会では、決して統合ありきで審議していたわけではないのに、伝わらなかったという部分で残念な気持ちです。

自分の地域である佐治、用瀬が統合を終えて、佐治地域から中学校が無くなって数か月が経っています。地域が閑散としているのか、若しくは疲弊しているのかということは、中長期的なスタンスで見ないと分からないですが、地域の者の目から見て現段階ではそういう感じは受けないです。耳に入ってくるのは、逆に佐治、用瀬の子ども達があいまみえて、いい雰囲気になっているという良い情報が入ってきます。

千代南というのは、確かに標準とする学級数からは少ない学級数ですが、それをよしとして統合を進めたという経緯があります。今回の青谷、鹿野については、統合ということに猛反対されているカラーが強い。それはそれで地域として望むのであれば、尊重していかなければいけないと思います。ただ、鳥取市全体として、よりグローバルな社会で成長していく子どもを育てようと思うのであれば、もっと大きな視野で構えていかなければいけないのではないかと思いました。

例えば小中一貫校を進めるという事であれば、それなりの責任というものを感じながら発言していただかないといけないと思います。５年後、１０年後というスタンスではなく、２０年、３０年先に子ども達が大人になって、鳥取市というものを運営していく時に、しっかりとした考えを持てる子を多く育てようという気持ち、将来の子ども達を考えた発言をしていただきたいと思いました。

委　員　　話し合いの進め方ですが、皆さんからの意見の中に意見の集約の方法はどのようにするのか、といった投げかけがたくさんありました。中には地域審議会では意見集約は出来ないというところもありました。これから今後の方向性というところで説明があると思いますが、地域審議会や保護者会等に意見書を出してもらうということが書いてあります。各地域との話の中で集約の方法をどう決めていくのか、子ども達の声を聞くためアンケートをしてはどうかということも出ています。そういうことについては、事務局はどう考えておられるのかなと思いました。

委　員　　今までの審議で、統合案についていいのか悪いのかという議論をしてきたのかなと疑問を感じています。事務局も、自分たちの子どもが通う学校をどうしたいのか、どういう子どもを育てたいのか、地域がどういうふうに学校に関わっていくのかということを重視して、議論していると感じています。そうなると、校区審議会がリードするというより、各地域で話し合いをしていただかないといけないと思います。大きな地域で一つの答えを出すというのは非常に難しいことだと思いますが、地域の意見というものが出てこないと、校区審で審議のしようがないというような気がしています。

最初に統合ありきということで色々意見が出ているようですが、改めてこういう選択肢があるのだよというものを出して、それについてメリット、デメリットを付けて住民にお知らせしないと、地域で話をしようがないのかなと思います。先程から出ている地域審議会は、校区のことを審議するような審議会ではないです。市長の諮問を受けて審議するという意味

合いですから、なかなか話がまとまらないだろうと思います。
　私は福部ですが「福部の教育を考える会」は、まちづくり協議会から発生させて、そこで各団体の長、それから公募で人選して今２９名という大きな所帯になりました。そこで話をしていこうということにしています。今まで都合２回の会を開いています。先日２回目は校区審議室にも来ていただいて説明を受けました。
　地域に学校を残すのにどういったメリットがあるのか、どうしたいのか、子どもの教育を考えるということが、まだバラバラでよく分からないので、とりあえず２つに分けて話をしよう。その中で、いずれリンクする部分が出てくると思いますが、まずはそこで話を整理したうえで地域住民にアンケートをとろうと話をしているところです。
　なかなか時間が掛かることだとは思いますが、今が正念場だろうと思います。しっかりと地域の方も時間を掛けて、どういう方向性に持っていくのか、必ずしも決定事項でなくても、ある程度の方向性、例えばどうも鹿野は小中一貫校に傾いておられる方が多いのかなと思いますが、鹿野町はこうしたいという意見が出てこないことには前に進まないのではないかと思います。

会　長　　ちなみに、福部の方ではどの位前から議論がスタートしているのですか。小中一貫という方向性も出ているようですが、やはり準備がいると思います。どのくらい準備を重ねているのかも含めて、もう少しお聞かせ願います。

委　員　　会としてはまだ２回しか開催していません。５月の終わりと、この前の６月２１日の２回です。会の開催に当たっては、会長、副会長、事務局で事前に協議して、どういう話の持っていき方にしようかという話をしています。小中一貫校も資料だけでは分からないこともあるので、湖南の学校ではなく地域の方にお邪魔して、どういう話の進め方をして現在に至ったのかもお伺いする計画も立てています。
　それと、７月１１日の湖南学園の見学会も希望者は行きましょうと言っています。希望がたくさんあれば、別日程で福部だけで実施していただけると聞いていますので、その計画も可能かと思っています。それから湖南の地域の方に来ていただいて、地域としてどんな取り組みをしているのか、どういう考え方でこうなったということもお話して欲しいなということも少し話をしています。

会　長　　仮に小中一貫を提案するなら一部の人の意見だけでなく、そこのエリア全体の意見として、しかも準備から取り組みをしていくよう、早くその地域の人達で進めて欲しいということですね。準備無しでは成功しないということですね。

委　員　　現在は特に西部地域の話がメインになっていますが、旧市の明治、東郷、神戸小学校のＰＴＡ会長とも話をしたところ、この議論を注視しておられました。標準規模で人数ありきの統合等が進んでいくのか、通学であるとか地域性というものを重視していくのかというところを、もう少し示してもらわないと、今後自分たちの小学校をどうしていくのかという話もしづらいということを言っていました。今回の審議でもう少し方向性を出していただけると、旧市の方も進むのかなと思いました。

委　員　　校長会としては、西部地域のあり方について時間を掛けて検討したということはございません。ただ、学校の校長という立場ですから、現在の学校の子どもをしっかり教育していくということが大前提です。今いる学校が無くなってもいいと思う校長は誰もいないと思いますし、先程から出ている地域の意見の方向性というのは、ある程度固まっていくべきであろうと、それが大前提ではないかと思っています。
　しかし、千代南中学校で、野球部なんかが６月の東部中総体で人数も増えて勝ち進んだという形もあります。統合のメリットで、部活動が活性化してくるということはあると思います。同時に佐治中学校の近くに住んでいる方の話で、やっぱり子どもの声が聞こえなくなったのは寂しいと聞いています。

どちらにしても、率直な意見が出ていると思います。そんな色々な意見が出ている中でも、地域の意見というのは大事ではないかと思っています。

委　員　　小規模、中規模、大規模の学校がそれぞれあって、その規模の学校でどんな教育をするかが大事で、どんな規模でも教育は出来るわけです。学校教育という意味で、大きさについて校長がどうこう言うことはないというのが大前提だと思います。

日置小学校に教頭、校長で７年間いました。平成１２年に赴任しましたが、その何年も前から統合問題は出ていました。結局統合したのは平成１８年年度末で、それが南校舎、北校舎の２校舎でスタートし、実施までに１０年以上掛かりました。

経過は一緒です。地域の皆さんの気持ちは学校が無くなると寂しいし、地域振興策を同時に進めて欲しい、それが無いのに学校だけが無くなると地域が寂しくなる、過疎になるということがありました。地域の皆さんの声はなかなか一緒に出来ないということがあります。青谷でも谷が違うだけで考え方が違う中で、気高、鹿野、青谷で一つになろうとするには、よほどの強烈な力が働かないとだめだと思います。

それから行政への不信感があります。行政としては財政問題も大きな問題だと思います。青谷の小学校統合の時は、新校舎の設計図も書き、青写真も出来て、教員もどんな備品を入れるかまで協議していました。後はゴーサインが出るだけというところまで進んでいたのに、上寺地遺跡の問題や地盤の問題で出来なかった。そのうちに児童数も段々と減って旧青谷小学校に入れるのではないかということで、現状のようなことになった経緯があります。

それに対する地域の皆さんの不信感があります。今回は、あれだけ古くていつ倒れるのか分からない状況なのに、今になって急に危ないからこれと統合とを引換えみたいにしている不信感があると思います。だから、そういうところを地域の皆さんに納得してもらうのは、なかなか難しいと思います。そこに住んでいる人は、中学校が無くなることで寂しいを通り越して、重大な問題になってくると思います。

小学校も無くなり中学校も青谷から出ていくと、どこに住むのかという問題になってくると思います。長年そこに住んで地域を愛してこられた人にとっては、中学校が出ていくことは本当に寂しいのではないかと思います。こう考えると、結論はなかなか難しい。１年、２年では出ないと思います。急ぐと益々混乱に拍車が掛かると思います。

総論は賛成でも、各論は中学校がそこから無くなったらと思うとなかなか結論は出せない。ではどこを優先するのかというと、本当に校舎が古いことを我々は身をもって感じていますので、早く安全対策をして欲しいと思います。

委　員　　湖南学園を見学する４０人は、学校に行って施設を見たり聞いたりして、意見交換を４０分程して鹿野支所に戻って解散する、なんだか芸が無いような気がします。支所の窓口は何か工夫は無いのですか。

事務局　　これは、鹿野支所の地域振興課を受付窓口にしているだけで、設定は校区審議室でさせていただきました。

参加者数が分からない中、バスということで先着順にしています。見学会は１回したからもうしないわけではなく、とにかくやってみようということです。好評であれば２、３回と開催したいと思います。先程の福部の方でも単独でという話もあるようですし、そういう考え方をしています。

内容ですが、やはり実際の状況を見ていただくことが大事であろうと思います。イメージだけではなく、自身の目で見ていただいて感じていただくということを目的としていますので、あまり企画的なものは考えていません。

会　長　　以前から鳥取市全体でも小中一貫の情報が欲しいという要望があったと思います。これが皮切りですので、まずは現状を見ていただくと。小中一貫には色々なタイプがあって敷地、建物を一緒にする小中一貫もあれば、敷地、建物は別々で連携という形をとっているところもあります。

それと先程言ったように、小中一貫を実りあるものにするためにはどんな準備がいるのか、地域とはどういう関係が必要なのか、小中一貫がいいというだけではなくて、小中一貫を作るプロセスをよく見ていただかなければいけない。その辺の工夫についての委員からの質問だと思いますので、２回目、３回目にはその辺りもお願いします。

事務局　ただ単に小中一貫にすればいいというわけではなくて、どういう教育目標といいますか、地域との関係でこういう学校にしていきたいというようなことを考えていただければと思っています。

副会長　校区審議会でいい意見を出していただき、審議を進めていただいていると思っているのですが、その審議の内容に対して不信感を持たれているとすごく感じます。それをどうしたら払拭出来るのかということを思っています。

ただ、校区の審議で過去の校区がどのように決められたのか、自分自身が不信感を持っています。どんな過程で今の校区が決定されたのか、時代時代で関わった人に具体的に情報公開する必要があると思っています。

同時に、今関わっている方がもっとレベルアップする方法を考えていかないといけないと思います。きちんと情報を提供し、その情報を皆さんにきっちり伝わるような形でやっていかなければという気持ちを持っています。我々も現地に出かけたりして、色々な人と意見交換をする必要があるのかなという感じを思いました。

会　長　これまでのまとめとして、西部地域の問題がクローズアップされてしまって「中間とりまとめ」全体の課題が少し薄くなったように感じます。「中間とりまとめ」で市民の方々に我々が提起したのは、「学校と地域のあり方をどういうふうに考えて、今後どういうふうにしていこうか」ということでした。いわゆるＡという緊急度が付いていないところも含めて「課題がありますよ」ということを投げ掛けたのです。「今のままでいいという訳ではなく、子どもの教育の問題や学校と地域の関係を考えると様々な課題があります」ということを「地域の人に一緒になって考えて欲しい」という投げ掛けだったと思います。

結論は地域の人たちが合意し納得していく方向で出していくわけですが、例えば単独で中学校が残ったらそれでいいというものではありません。放課後のクラブ活動が十分に出来ていなければ、それにどう手を打つのか。旧気高地域でもっと交流をしていこうとか、別の形のあり方をしようとか、様々な知恵やアイデアを出していただきたいのです。そういう意味では、校区の問題を一つの契機にして、学校と地域がどういう関係を築いていくのかを考えるいい機会だと思います。その選択肢としては、横に一緒になる統合、縦につながる小中連携とか小中一貫、その他の色々な選択肢がありえます。

例えば佐治の話も出ましたが、空いた旧佐治中学校の校舎を地域のコミュニティセンターとか高齢者のケアに使えないかとか、乳幼児から高齢者まで地域で共に暮らす中で、校舎や土地の使い方という問題まで提起して欲しいと思います。そういう地域での議論や意見書が上がってくると嬉しく思います。

私どもの残りの任期はあと２、３ヵ月しかありません。その任期の間にどう取り組んでいくのかというところを話していきたいと思います。

委　員　佐治の場合、学校が無くなって付近の方は寂しい思いをされているというのがありましたけど、それは当然あると思います。ただ、自分自身は佐治の奥部の方の小学校に育った人間です。地域に根ざした小学校の卒業生です。それが、小学校が統合してその地域の小学校が無くなり、それから次は中学校も校舎が古く約７、８キロ離れた地域の中間部の中学校に移転しました。その中学校も、この度の佐治と用瀬が統合して佐治の地域から無くなった。

２度３度と経験した者から言わせてもらうと、確かに学校の周辺の人にすれば子ども達が通っていたのがなくなり一抹の寂しさを覚えるかも知れません。しかし少し離れた奥部の人にしたら、学校が有るという認識が大きく、寂しさはあまり感じていないと思いますし、周辺の人たちも時の流れによって変わってくると思います。

今この地域の課題は、旧校舎をどう活用していくのかということがあります。今年から始めたことで、佐治小学校と地域の振興協議会の共催で運動会をしようという動きがあります。中学校が無くなったから、逆に小学校を母体として何とかやっていこうというエネルギーが出て来ています。その中で課題の旧校舎については、２つの保育園を統合した新保育園が来年度、中学校跡地に出来る計画になっています。このように色々模索してレベルアップしていくべきだと思っています。

会　長　　湖南の事例もそうですが、佐治・用瀬の事例もおいおい経過報告していただき、旧町村をまたぐ新しい中学校づくりについてどういうような成果や発見があるのか、是非伺いたいと思います。

後半部分で、事務局と会長の考えが若干違う部分がありますので、休憩を挿んで詰めていきたいと思います。それでは、少し休憩します。

会　長　　それでは、再開させていただいて議事の方に入っていきます。事務局から説明をお願いします。

事務局　　議事（１）、（２）を説明。

会　長　　協議を始める前に、会長として方向性を確認したいと思います。事務局としては西部地域の問題に大きな関心があると思いますが、私の認識としては「中間とりまとめ」で出させていただいた課題のところと対等です。ですから、地域に出掛けての説明や地域の声を聞くのも、西部地域だけに限らず、Ａという課題のところには出ていくべきだろうと考えています。

それで例えば西部地域に限りましても、問題の出発点が違っているわけです。３つの中学校の内、鹿野は規模の問題です。気高と青谷は耐震の問題です。加えて気高は小学校で規模の問題が出ているエリアだということです。

ですから、中学校だけ単独で切り離して議論は出来ないだろうと思います。規模の課題を抱えている所、耐震の課題を抱えている所というような課題を全部お伝えしたうえで、このエリアは小中一貫の形で地域づくりをしたい、こちらのエリアでは統合の形で結ばせてみたい、といった結論が出てくるのであって、中学校だけ切り離して結論は出ないだろうというのが私の考え方です。最終的には中学校に比重が置かれてくると思いますが、説明の仕方は課題について全てお伝えし、総合的にお考えいただく方向性がよろしいのではないかと思います。

それから多分、西部地域については任期の１０月２３日までには結論は出ません。次の委員に引き継ぐしかないだろうと思います。そういう意味で委員の皆さんには１０月２３日までの残された任期の中で、何をやるべきなのかということを少し検討していただければと思います。

新しい委員には、当然公募の委員もありますので、いろんな課題を抱えている所から応募があって、その中から選ばれることも一つのあり方かなと思います。早めに校区審議会委員の募集を住民に流していただければと思います。

では、事務局から出された方向性と進め方について、ご意見等いただきたいと思います。

委　員　　こういう形で議論を進められていくと、地域の思いが吸い上げられていい方向に持っていけるのではと思います。やっぱり統合ありきということが一番西部地域の問題となっていたわけですから、地域の皆さんもいろんな立場で、いろんな角度から意見を出すことが出来、望ましい方向にいくのではないかと思います。

それからもう一つ、行政のことで発言しましたけど、あくまでも青谷町時代と市町村合併の時のことで、いろんな条件が重なってそうなったということで、私自身が行政不信ということではありませんので一言付け加えておきたいと思います。

統合ありきではないことを了解していただき、新しい流れが出てくるような話は校長会でも説明しやすく、みんなで同じ土俵で考えていけるのではないかなと思います。

会　長　　ありがとうございます。さらに、ざっくばらんに皆さんの方からございませんか。
上山委員にお聞きしますが、福部は今後どういう形で進むのか、福部もＡということですが、少しご事情とか今後の予定等を聞かせていただけますか。

委　員　　先程も話しましたが「福部の教育を考える会」を立ち上げて、２回ほど会議を開きました。その中で、地域の人全員に知ってもらって意見が欲しいということで、アンケート意識調査をという意見が出ています。意識調査担当の委員を何名かで話し合いをして、その内容を全体会で精査したうえで配りたいと考えています。各家庭家で家族構成が違うので、全員を対象とするかどうかということも含めて、これから検討していきたいと思っています。
それと会の役員でも、どういった進め方をしていくのか見えてないものですから、湖南地域にお邪魔して、どういう取り組みをしてきたかという話を聞かせていただくよう、７月の頭に計画をしています。その後で湖南の地域の方に来ていただいて話を聞く機会や、地域住民の方を集めた説明会をしないといけないという話はしています。ただ、何時にという詰まった話にはなっていません。
一見まとまっているような地域ですが、みんなの意見を集約するということは難しいことなので、なかなか時間は掛かるかなと思ってはいますが、早くそういった作業を進めて行きたいなと思っている段階です。

会　長　　最初に福部のことをお聞きしたのは、結局Ａという課題が出ているのが７件あるわけです。ですから福部も来年の３月までには何らかの形で、地域の考え方を文書の形で出していただきたいと考えています。
その際、地域として校区審議会や教育委員会に要望したいこととかありますか。例えば「中間とりまとめ」が十分伝わっていないので地域に説明に来て欲しいとか、小中一貫の事柄についてもう少し情報が欲しいとか、湖南タイプもあれば、湖南ではないもっと別のタイプがあるとすれば、多少お金がかかってもそういったところを見に行きたいとか、講師を呼んで聞きたいとか。

委　員　　今のところは、校区審議会にどうということでは無く、福部地域としてこの校区審議会にどういう答申を出すかを考えているところで、それについて色々な資料をいただかないといけないと思っています。特区を取るのか、特区を取らなくても９年生ということが出来るというお話も伺いましたし、会長なんかはコミュニティスクールという考えも持っているところもあります。それが一緒になった形で地域がうまく学校に入れる形がないかと模索しているところです。また途中途中で、必要になった時にはお願いすることはあると思いますが、今のところは具体的なものはありません。

会　長　　分かりました。コミュニティスクールであれば鳥取県では南部町、伯耆町が進めておりますので、そういった所へ出ていくのも一つの方法かなと思います。
お聞きしていて、福部のように考えていこうとする母体、組織をやはり旧気高郡でも早急に地域を中心に作っていただく必要があると思います。事務局では地域へ課題を説明していく意識は出ていますが、その課題をどうやってそれぞれの地域で話し合って、議論を詰めて、地域としての意見を文書としてまとめていくかを支援していくべきだと考えた方がいいのではないかと思います。
意見交換会で、地域を超えて話し合う場の設定という意見もあります。そういうところをもっと地域と相談され、校区審が出掛けるのがいいのか、事務局が地域の組織作りを支援するのがいいのか考えていってはどうかと思います。説明は次の任期になってもいいのではと思います。むしろ急ぐのは、地域の人たちが議論を主体的に行う母体づくりへの取り組みではないかと思いますが、ご意見があればいかがでしょうか。

委　員　　審議の方向ですが、確かに問題は全市についてありますが、全部を同時には出来ないので、地域を順番に結論付けていかないといけないと思います。そうすると耐震の問題があり急ぐ

西部地域をまず集中的に論議して、一応の結論を見るべきだろうと思います。
それから意見集約の方法は難しいですが、ＰＴＡの意見は十分得る必要があると思います。
３つ目の校区審議会に対する公正の問題ですが、地域の人に入っていただくことは大賛成です。意見にもあるように地域の事が分からないのは確かです。途中でも早く入れることが出来るのなら、入ってもらって論議した方がいいと思います。
審議の方向は、やはり西部地域を先行すべきかと思います。そうすると中学校の問題と小学校の問題を切り離してやらざるを得ないと思います。中学校の問題をやるなら必然的に小学校の課題が自動的に切り離されて残ると思います。どちらかと言うと小学校の問題が前提ではないのかなと思いますが、どちらかの結論を先に出すべきだと思います。

委　員　　地域の意見を集約するには時間が掛かるようなので、校舎の危険個所、青谷中、気高中は早速にも予算を付けて建築の方で手を付けていくべきだと思います。このまま放っておけば、住民感情がなお難しくなるのではないかと思います。

委　員　　「福部の教育を考える会」というのを内部から作られたということで、すごく良いことだと思います。佐治の場合は地域審議会でやっていかざるを得ない、自身がＰＴＡ会長をしていた時から周囲の住民の方は意識が低く、手を付けにくいというところがあって、だからこそ地域審議会がやっていくべきだという方向でやってきました。早急に西部地域の気高、鹿野、青谷でも母体を立ち上げて、それで輪を広げてもらって議論を煮詰めていかないと話が進まないと思います。

委　員　　地域の将来、学校の将来を考えるうえで、地域の方が一緒になって考えるという形で協議をしていただきたいと思います。
必ずしもみんな同じ意見ということはなく違う意見もあると思いますので、それら含めて地域の意見としてどんな形で集約していくのかということを、地域のみなさんが自分のこととして考えていただきたいと思います。

委　員　　こういった重要な話は、長い議論を加えてある程度の方向性を出した方がいいと思います。ただ、現状が中学校２校の耐震という問題を抱えていて急がされているような感じをよく聞きます。やはり早急に耐震補強をしていただいて、それとは別に将来的な学校はどうあるべきかを地域でしっかりと組織を作って、それから意見をまとめてもらう方がいいのかなと思います。
特にＰＴＡの意見を聞くというのもありますが、今はどこもそうですが、ＰＴＡ会長や役員が１年や２年で変わってしまうのが実情で、１年しか任期がない会長に急に意見を求めるのはかなり困惑されると思います。保護者の意見にしても、ある程度長い年月をかけて議論できる組織等を作ってもらった方がいいのではないかと思います。

会　長　　事務局に確認ですが、２４年度に調査があって耐震結果が出ました。いつまでにどういう予算を立てていくことになりますか。

事務局　　仮に本年度中に例えば単独存続ということになれば、当然２６年度当初予算か補正かは別にして、設計予算を組んでいくことになりますし、２７年、２８年度に建築予算を組んでいくという、最短でそういった流れになります。

会　長　　最短でも３年ということですね。例えば工事中になりますと、生徒はそこで学びながらの工事になりますか。

事務局　　それは、そのパターンによります。例えば、単独存続でも現位置で建替えるという考え方もありますし、可能性として、どこか別の場所にという考え方もあります。別の所でしたら現校舎を使いながらになると思います。同位置に建替えとなれば、例えばプレハブ校舎に移

動してという形になると思います。

委　員　　地域の方が、学校検討委員会のようなものを立ち上げられて、適切な資料を検討しながらやっていくのはいいことではないでしょうか。

委　員　　７月の中旬から我々１１期の９月上旬まで、意見交換会がスケジュール表の案に書いてあるのですが、その間に計画として何回あるのですか。

事務局　　今までの意見交換会は、地域の皆さんの意向に沿って設定してきました。これからはある程度、こちらから投げかけるような形になってくると考えています。ただし、現時点で具体的な計画、日程が組んであるわけではありません。

委　員　　基本的に、それに向けて資料を変更するわけですね。その原案ができたら委員に送付して意見を求めて、その意見を基に修正案が出来上がって、それでもって意見交換会で資料提供して進めることになるのですね。意見交換会が何回あるのか分からないことも含めて、審議会委員が出かけると言っても日程すら分からないわけですよね。我々の任期は終わってしまうのですが、そういうことで実際出来るのかと思います。

会　長　　１０ページにありますように全体の校区審議会が８月下旬、１０月上旬で、間に９月の定例市議会が入ってくるというスケジュールになっています。

副会長　　意見交換会で出てくる意見は、あくまで個人的意見なのです。先程の「福部の教育を考える会」は別ですが、結局個々の意見を聞いていても全体の意見として誰を対象として集めていくのかが不明なのではないかと思います。福部ですとその会が主体となって色々な意見が集まりますが、この意見概要については、個人的な意見ではあるけどこれを取り上げていいのかという事があります。ですから、何らかのそういった団体みたいなものが無いと、地域の意見としてまとまってこないのではないかと思います。そういう意味で、福部のような形が色んな地区の中で作っていけないのかなと、作っていただく仕掛けはこちらの方でしていかないと出来ないのではないかと思います。

会　長　　２月６日付けで自治会長宛てに「鳥取市校区審議会中間とりまとめ（依頼）」という文書を出していて、この段階では７月末を目途に緊急度Ａについて何らかの回答をお願いしますとなっています。それを前回、７月ではなくて３月にしようということになりました。

その中に、「緊急度Ａとしている地域については後日改めてご説明に伺います」と書いてあります。西部地域だけやっているということは、ある意味、他の地域をないがしろにしていることになるわけです。緊急度Ａと出ている７つの事例については、こちらから場を設定するか先方から出てきて欲しいというふうな要望があれば、我々の任期の間に説明に行くべきだと思います。そのうえで、やっぱり比重は西部地域のところになってくるだろうというのが１点です。

ただし、西部地域に出かけて行く場合、説明会だけではなく、まとまりをその地域に作ってももらわないことには、地域の結論が上がってこないわけです。だから説明会をするだけで果たして良いのかどうか。３月までに地域の意見として何かを上げていただくとすると、地域によって特色があり、教育を語る会がいいのか、自治会がいいのか、地域審議会がいいのか、いろいろあると思います。その辺りをもう少し話し合って、これはある一つのまとまりでは難しいのでＰＴＡからも出してもらおう、自治会からも出してもらおうというように色々なところから挙がってくるというのもありうるのか。やっぱり地域である程度方向性をまとめてくださいとなるのか、少しその辺りで説明の仕方や出て行き方が違うような気がします。その２点はどうでしょうか。会長としては全てのところが対等だと思っていますが．．．。

事務局　　まさに「福部の教育を考える会」というのは、一つの理想で、しかもこちらから何か仕掛けたわけでもなく、地域の皆さんの意思でつくられた会ですし、そこで議論されて出てきた意見というのは、本当に地域の意見として重いものだと思います。確かに、これまでの意見交換は、個人の枠を出ていきませんから、そこで議論をしても結論的な話は出来ないということは感じています。ですから、３地域においても福部のような組織が出来て、話し合いを進めていただければ理想だと思います。現実には、どうなるかは分かりませんが。

会　長　　その辺りを、率直に３地域に投げかけてみてはいかがでしょうか。どういうふうな議論の仕方がその地域に最もふさわしい話し合いなのか。

事務局　　地域としての意見書を出していただくと言っても、地域ごとに事情も違う、置かれている立場も違う、歴史も違う中で、何がいいのかをこちらが一方的に決めてこの団体から出してくださいというのも難しいでしょうから、可能な限り色々な意見を集めていくのが現実的かなと思います。

会　長　　意見交換会で、いわゆる旧町を越えた合同の意見交換の場が欲しいという発言もありましたが、そんな場を設けてみることや、地域で意見をまとめていく組織についても投げかけて相談してみてはいかがでしょうか。
　Ａで出した７つの地域に、「校区審議会として説明が必要ですか」「教育委員会として何らかの支援が必要ですか」と言うことも聞いて、無ければ任期中に出かけていくところは減ってくると思うのですが、やはり中間まとめを出したからには我々にも責任があります。説明に来て欲しいとか資料が欲しいとかあると思いますので、その辺りを確かめていただいて、結果として西部地域に比重がかかってくるのかも知れませんが、その作業をお願いできればと思います。

事務局　　１点だけ。危険なので例えば耐震補強等をして安全を確保したうえで、時間を掛けて議論をするという考えもあると思います。コスト面は否定できないところもあって悩ましい部分ですが、どちらにしても中学校については早い段階での結論を出していただいて、方向性を見極めたいということが正直なところです。

会　長　　選択肢は、例えばそれぞれ単独で補強する案もありますよね、それと２つの中学校が合わさって残る１つは単独でというのもありますよね。３つ全ての統合案もあります。その辺りの結論というのは、恐らく１０月２３日までには出てこない。ただし仮定として教育委員会サイドがいくつかシミュレーションをして、予算とか進行プロセスは書けるのではないかと思います。今までは統合の案しか説明していませんでしたが、そうではなくて色んなケースの資料を作って丁寧に地域に説明し、タイムスケジュールも含めて議論していくことが出来ないかと思います。かなりの作業量だとは思うのですが。

事務局　　皆さんの意見を聞かせていただきまして、そのとおりだと思いました。事務局でも提案できる資料を新たに作り直したいと考えています。これまで行った議論を同じようにしていても、これ以上の議論は深まらないという感じを受けています。
　何地区かの意見交換会で感情論の部分もありましたが、地域住民の思いを受けながら、次のステップにいくための資料をどう作るのか、会長からありましたように、統合、小中一貫、或いは単独存続、それぞれのシミュレーションを作る必要性は感じています。
　その中でもう一つ難しく感じているのは、地域がまとまって自分たちの学校をどう作っていこうかと考えていく機運の盛り上がりです。そして誰を中心にしながらまとめていくのかということです。それには事務局も働き掛けていきますが、ここにおられる例えば学校校長会の委員やＰＴＡ代表として出ていただいている委員等、皆さんの力を貸していただき、地域で議論を盛り上げる働きかけを事務局としてもお願いしたいです。今日のご意見を受け止めながら、次の段階に向かって頑張っていきたいと思います。

委　員　　単純な意見を言いますと、中学校の統合か単独維持かという線を出して、その方向の資料を作って地域に説明した方が分かりやすいと思います。反対なら反対と結論も出るわけですから。問題は小中一貫校ですが、これは何度聞いても小規模校を誤魔化しているように思います。ですから審議会でどちらの方向か出さないと進んでいかないと思います。自身がどう考えるかと言うと、説明や意見を聞かせてもらって、特に青谷は歴史的な問題もあるわけで、しかも１０年後でも６学級は持てそうですから、当面単独という方向で進めて行ったらどうかと思います。

委　員　　旧気高郡のそれぞれの地区に、福部の会のような組織をお願いしたらと思います。これまでの意見交換会のように、個人が集まっても地域のまとまりが取れませんし、各３町で組織を作っていただいて、責任のある会を開いていただければ、こちらから出かけて行っても応対しやすいのではないかと思います。

会　長　　まとめますと、８月下旬の第１２回審議会では資料の新しいものが出てきて議論するということになると思います。それまでに可能な、耐震対策が必要だという建物はやはり見る必要がありますのでそれはやろうと思います。それと説明会ないし意見交換会については、西部地域以外の他のＡランクのところからも要望があれば出ていく必要があるだろうと。それで我々の任期でのとりまとめを考える必要がありますが、結論は出ません。ですから申し訳ないですが、１０月２３日で任期切れになると思います。

その時に、次の委員の公募も含めて情報提供を早い段階から市民に返していただいて、いろんな委員がこの審議会の中に参画していただきたい。そういう形で次のところにバトンタッチということだと思います。

教育委員会としての説明はしていただいていいのですが、結論を挙げてくる母体を抜きにはなかなか進んで行かないのではないかと思います。説明会で「よろしいですか」と尋ねて多数決というわけにもいかないです。それぞれの地域に、意見をまとめるのはいったい誰なのか、どこなのかということを投げ掛けながら、教育委員会の資料の説明をする、または審議会からも出かけていくというプロセスかなと思います。

事務局　　個人の意見でも、何十回もそういう場を設定して聞いたから、そしてその問いかけに我々も返事をしたので、いつまでもそういう意見交換会ではだめなのだと分かったと思います。だから、次の第２ステップはそういう団体が必要なのだという必要性を皆さんが感じられたと思います。ですから、これまでの意見交換会は決して無駄では無かったということを皆さんで共通認識し、次のステップにいきましょうという認識を共有したいと思います。

委　員　　福部の会は、自主的に組織を作っていただくといい方向に進むのではないかということを提言していると思います。

委　員　　福部の議論を聞いていて、校区審議会とは別に、教育委員会の場などで小中一貫教育は論議されていますか。されているのであれば聞かせて欲しいことがあります。

米子市は全小中学校で一貫教育をやると教育長が答弁し、これまでの小中連携教育から発展させて、米子の小学校２３校、中学校１１校で小中一貫教育を導入するとの考え方を表明しています。施設を一体化するのではなく、目ざす子ども像を共有するという表現から思うと学校はそのままだけど９年間の一貫教育を米子市はやっていくのだということです。

松江がそういうことで動いていますし、八頭の３町、郡家、船岡、八東も１つの中学校に統合するということを条例で決定しました。そういう情報もある中、湖南学園は実現したけれども、後は地域から盛り上がってくるのを待っているのか。或いは何か戦略的に幾つか進める考えがあるのかどうかを聞きたいわけです。

事務局　　結論から言いますと、小中一貫教育はやっています。既に鳥取市は３年目を迎え、今年度最終年度として小中一貫教育を中学校区で進めている、これが事実です。ただ、その中で反

省しているのは、他市に比べて情報発信が弱かった、もっと上手に情報発信をしておくべきだったなということです。
　今年度が最終年度で各中学校区がそれぞれ自分たちのやってきた取り組みをきちんと情報発信しながら、次のステップである小中が一緒になって教育を地域で起こしていこうという動きが出てきているところです。我々が望んでいることは、その中学校区が自主自立で自分達の特色を持った教育を各地域で作ってくれる、それをどう動かしていこうかなということを鳥取市は考えています。鳥取市は３年前からしっかりとした中学校区の教育をやっております。

委　員　　先ほど小中一貫校を誤魔化しだと言いましたが、今の説明の小中連携の９年間或いは、高校を入れた長期で見る教育を誤魔化しているという意味ではなく、小規模校を残すために小中学校を一つにして一貫校だという、それをやるのが誤魔化しだという意味で言ったことです。９年間なら９年間を通してそういう一貫性をもった教育をする、連携するということは必要だと思っていますので若干補足させていただきました。

事務局　　言葉に誤解がありまして、小中一貫教育と小中一貫校とを混同されて考えていらっしゃる方がおられます。小中一貫校はあくまでも学校を統合しながら教育をやっていこうというシステムです。小中一貫教育は分離型であっても一つのチームとして９年間の義務教育を一緒に考えながら取り組んでいこうというものです。そういう部分をお間違えないようにお願いします。

委　員　　気高郡でも誤解のある方が結構あると思います。この意見の中では何名か一貫校ということを言っておられますが。

委　員　　ですから、十分に説明されておかないといけないと思います。鹿野は、どう考えておられるかというと、一貫校を考えておられるのですね。一貫教育は既にできている訳ですから。その辺りを理解されているのですかね。

会　長　　もう一度確認なのですけれども、例えば神戸の問題、東郷、明治の問題というのも３月までには何らかの意見を上げてもらわないといけないわけです。それについて、教育委員会と校区審議会が何もしないということはあり得ないので、ここについても働きかけをきちんとしておいたうえでの西部問題、という形を会長としてはお願いしたいと思います。
　それでは、特になければこれで終了して、次の会議までに現地視察や地域に出かけて行く日程調整をそれぞれに進めていただこうと思います。では、事務局にお返しします。

事務局　　それでは、長時間ありがとうございました。これで第１１回校区審議会を終了します。

（終了）